ツキノワグマから市民の命守る対策の周知徹底を！

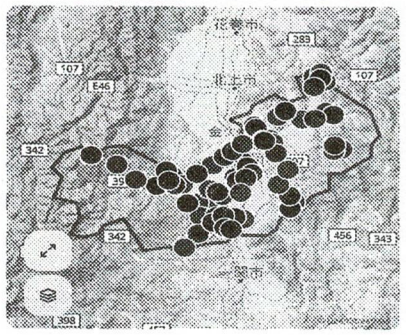
民報 おうしゅう 読者版

発　行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目59
Tel 24−2021
Fax 24−2049

令和８年奥州市議会第２回定例会は、６月25日閉会しました。日本共産党奥州市議団の４人の議員は、それぞれ一般質問を行いました。今号では、千葉敦議員の質問を紹介します


千葉敦議員

奥州市内では、連日のようにツキノワグマの出没情報が出ています。令和７年度のツキノワグマに関する通報の受付状況は、目撃情報が４８６件、被害が１２８件、痕跡の発見が１３７件でした。ニホンジカやイノシシなどによる農作物の被害は、12・9㌶、１１９０万円でした。


奥州市のクマ出没マップ

千葉敦議員は、「クマの行動が変化して、より大胆になっている可能性がある。過去の常識が通用しない状態。クマの生態が変化していると推定できる。学習して人里に出てくるクマを駆除することはやむを得ない」との岩手大学山内准教授の提言を引用しながら、市民の命を守るための対策の周知徹底を求めました。

リアルタイム情報発信を検討

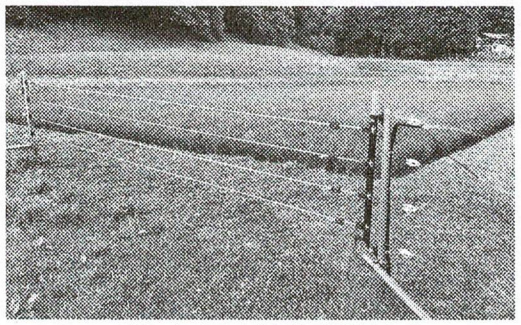
郷右近市長は「市民への周知はぽちっと奥州だけでなく、地域ごとの出没地点をまとめる形で情報提供していく。地図に落とした形でのリアルタイム情報発信を検討していきたい」と述べました。

捕獲したシカの処理支援を

千葉敦議員は、猟友会などから、ワナ等で捕獲したニホンジカ等の解体処理の場所が不足しているとの訴えを取り上げ、その対応策を質しました。

処理施設の設置検討

郷右近市長は「ニホンジカの捕獲の多い江刺地域に、大型排水管を使って投入・微生物を活用処理していく施設の設置を検討していく


ニホンジカからの被害を防止する電気柵（江刺稲瀬地内）

ナフサ不足不況の業者支援を

２月28日、アメリカとイスラエルが行った国連憲章と国際法に違反するイランへの軍事攻撃に端を発してホルムズ海峡の事実上封鎖という、日本経済と国民にとって重大な事態となりました。

原油を元にした「ナフサ」の流通量が減少し、石油化学からつくられる資材の供給不足と価格上昇が続いています。中小事業者は、昭和のオイルショック時やコロナ禍よりも深刻な影響を受け、黒字倒産が増える心配もされていま

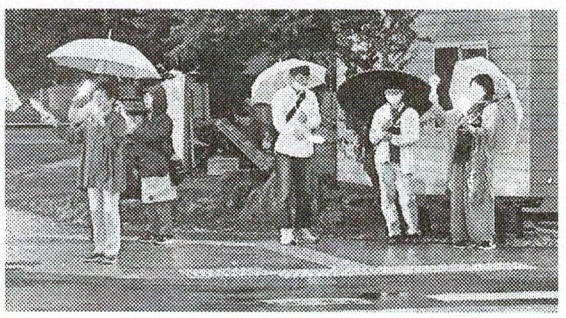
千葉敦議員は、中小事業者に対してこれまでのコロナ禍・物価高騰対応交付金による支援に加えて、さらに工場・家賃のリース料等固定費補助や資金繰り支援を求めました。

国や県の動向注視

郷右近市長は「『中小企業者・小規模事業者設備導入支援事業』や『中小企業等賃上げ支援事業』を実施している。また、『奥州市中小企業融資あっせん制度』での利子補給をしている。引き続き国や県の動向にも注視しながら、地域経済の状況の見通し等を勘案し、より事業効果の高い施策が構築できるよう検討していく」と述べるにとどまりました。

反戦・核廃絶・平和憲法　雨の中　ペンライトを手に訴え





６月２１日、ウクライナやイラン等での戦争状態の完全終結で世界平和などを呼びかける「ペンライトスタンディング」は、水沢西町の国道３９７号沿いで、雨の中行われました。胆江地区労働組合連合会や全日本年金者組合胆江支部などの団体で構成する国民大運動実行委員会（小原隆穂委員長）が主催し、一関からも含め４５人が参加しました。

参加者たちは、ペンライトの明かりを掲げ、核廃絶、恒久平和の大切さや平和憲法守れの願いを込めて、道行く市民やドライバーに訴えました。